

「歌姫の人生」

(第四十二回)

医師でありながら、テノール歌手として国際的に活躍している大学教授がいる。鳴門市出身の米澤傑(よしみ)さんだ。今までにも第九のソリストを務めるなど、ご存じの方も

多いだろう。先日、徳島でコンサートが行われ、郷里のファンからは熱狂的な拍手喝采。ピアノ伴奏は、光栄にも私が担当させて頂くことに。

リハーサルを通じいろいろなと学んだ。先生が本格的に歌い始めたのは大学生のとき。通常よりむしろ遅い。

でも正しい発声法を習得して研鑽を重ね、内外で高い評価を得ている。左の理性脳、右の芸術脳で微妙な音色を聞き分ける感性があるのは間違いない。ちょうど同時期に、話題作の映画「永遠のマリア・カラス」

を東京で観た。テーマは「歌に生き、恋に生き」。プッチーニ作曲のオペラ「トスカ」にある有名な曲の題名と同じ。カラスは15歳でデビューしオペラ界の頂点に駆け上がった。魅惑的な表現力やギリシアの海運王

との関わりなど、華々しい人生も演出であり舞台であったような気がする。天才ゆえの

苦惱で精神的にバランスを崩して睡眠薬を常用。ある日急に息を引き取った。劇的なカラス伝説は続いていく。

その当時、カラスに良きアドバイザーがいたら、歌姫の人生は大きく変わったことだろう。歌に生き、

医学に生き、感性豊かな米澤先生が、もしカラスの傍らにいたならば。

ストレスが **か**かれば心 **く**ぐつたりと **楽**になるには **涙**腺を **空**かす感動

健康のススメ

板東 浩

(医学博士・内科医師)